

埼玉県が進めるノーマライゼーションの理念に基づく教育の推進

支援籍指導資料

～支援籍学習を効果的に進めるために～



彩の国・埼玉県

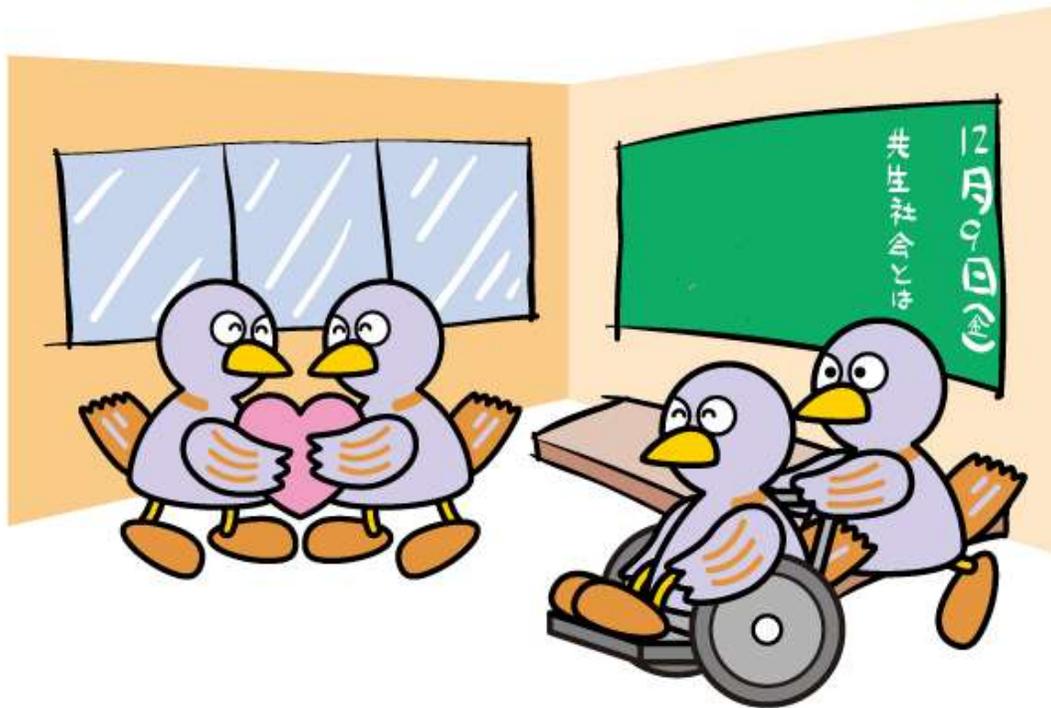
埼玉県教育局県立学校部特別支援教育課

「支援籍」とは

障害のある児童生徒が、必要な学習活動を行うために、在籍する学校または学級以外に置く、本県独自の学籍です。

この支援籍指導資料では、埼玉県が独自に進める「支援籍」の仕組みについて、具体的な事例を含め、まとめてみました。

今後、各学校において支援籍を進める上での一助になればと考えています。



はじめに

- [はじめに](#)

第1章 支援籍について

1. [ノーマライゼーションの理念に基づく教育の推進](#)
2. [「心のバリアフリー」と「社会で自立できる自信と力」](#)
3. [支援籍](#)
4. [支援籍を希望する保護者の気持ち](#)
5. [支援籍のねらいと効果](#)
6. [支援籍の種類](#)
7. [教育課程との関わり](#)

第2章 通常学級支援籍の進め方

- [通常学級支援籍の効果的な進め方](#)

第3章 通常の学級における支援籍学習の流れ

- [通常の学級における支援籍学習を効果的に進めるために](#)

第4章 通常の学級における支援籍学習で心がけること

- [通常の学級における支援籍学習を行う際の配慮](#)

第5章 通常の学級における支援籍学習を実施して

- [通常の学級における支援籍学習、実施後の効果](#)

おわりに

- [おわりに\(動画\)](#)
-

[トップページへ戻る](#)

本資料の著作権は、埼玉県教育局県立学校部特別支援教育課にあり、無断使用を禁じます。

[[このページに関するお問い合わせ先](#)]

教育局県立学校部特別支援教育課 Tel:048-830-6880 Fax:048-830-4960 E-mail: a6880@pref.saitama.lg.jp

[埼玉県ホームページ](#)

はじめに

障害のある人もない人も、同じ社会で暮らしているかけがえのない仲間です。共に手を携えて、より豊かな地域社会を作り上げていくために、お互いの理解と認識を深めつつ行動に移していくことが大切です。

ノーマライゼーションの理念に基づき、誰もが一人の人間としての価値を認められながら暮らしていける社会を実現するためには、子どもの頃からお互いを認め合い、助け合える環境をつくっていく必要があります。

障害のある子どもとない子どもが活動を共にすることによって、障害のある子どもの自立と社会参加を促進するとともに、障害のない子どもにとっても社会を構成する様々な人々と共に支え合って生きていくことを学ぶ機会となり、共生社会を作ることにつながっていきます。

【休み時間の様子】

ようこそ〇〇ちゃん、
遊ぼう、遊ぼう。



第1章 支援籍について

1. ノーマライゼーションの理念に基づく教育の推進

ノーマライゼーションとは、「障害者を特別視するのではなく、一般社会の中で普通の生活を送れるような条件を整えるべきであり、共に生きることこそノーマルであるという考え」のことです。

そして、このノーマライゼーションの理念の実現を図るためには、障害のあるなしに関わらず子どもの頃から共に育ち、共に学ぶことが大切になります。

そこで、埼玉県では、障害のある子とない子が一緒に学ぶ機会を拡大していくために、県独自の仕組みである「支援籍」の普及・定着を図るなど、「ノーマライゼーションの理念に基づく教育の推進」に取り組んでいます。

【一緒に下校】

なかよく手をつないで
保護者の願いでもあります。



第1章 支援籍について

2. 「心のバリアフリー」と「社会で自立できる自信と力」

ノーマライゼーションの地域社会を作るには、学校において「心のバリアフリー」や「社会で自立できる自信と力」をはぐくむ教育を推進することが必要になります。

心のバリアフリー

「心のバリアフリー」とは、障害者に対する差別や偏見などの心の障壁を取り除くことです。

「心のバリア」は、障害のある児童生徒に対する同情や憐れみの感情からではなく、「知り合う・ふれあう・学び合う」ことを通して、共感的に理解することで取り除かれます。

社会で自立できる自信と力

「社会で自立できる自信と力」とは、障害のある児童生徒が、障害のない児童生徒と一緒に学べるという自信や、生活や学習上のつまずきを改善または克服できる力のことです。

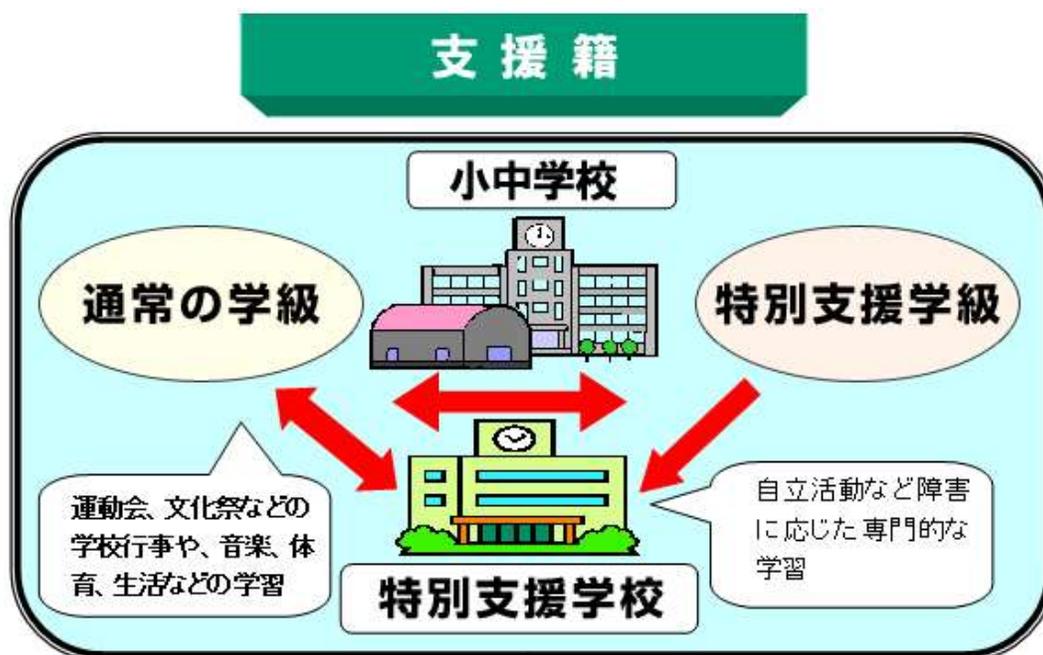
「社会で自立できる自信と力」は、共に学び、活動することを通して得ることができます。

第1章 支援籍について

3. 支援籍

「支援籍」とは、障害のある児童生徒が必要な学習活動を行うために、在籍する学校または学級以外に置く埼玉県独自の学籍です。

例えば、特別支援学校に在籍する児童生徒が居住地の小中学校に「支援籍」を置くことにより、同じ学校のクラスメイトとして一定程度の学習活動を行うことができます。また、小中学校の通常の学級に在籍する障害のある児童生徒が、特別支援学級や特別支援学校に支援籍を置いて、障害の状態を改善するために必要な指導を受けるケースもあります。



第1章 支援籍について

4. 支援籍を希望する保護者の気持ち

特別支援学校への就学を希望する保護者の気持ち

特別支援学校においては、障害のある児童生徒一人一人に対して、その障害の状態に応じた専門的な指導を受けられる反面、居住地から離れた学校へスクールバス等を使って通学するため、地域とのつながりが薄れるのではないかと不安になります。

支援籍による学習

居住地の小中学校に支援籍を置いて一定程度学習をする機会を設けることによって、居住している地域とのつながりを深めることができます。

支援籍制度により、特別支援学校における一人一人の障害の状態に応じた専門的な指導と、地域とのつながり、その両方が満たされることになります。

お母さんの手紙

【はじめのあいさつ】

お母さんからみんなに
よろしくお願ひします



お母さんの手紙

ある日私はさびしさを感じるようになりました。「近所の人には息子を知っているのだろうか？」「この町でずっと住んでいくのにこのままでいいのだろうか？」「町を散策しても息子に声をかけてくれる人はいない。」そんなことを感じました。

地元の幼稚園に通えたら、息子にお友だちができるのではないかと思い幼稚園に入学させてみることにしました。しかし、園とのコミュニケーションがなかなかうまくいかず、たった半年で幼稚園を辞めることになってしまいました。街中で声をかけてくれる子どもたちができはじめていた頃ですのでとても残念でした。また、通園施設に戻り、前と同じ生活になりました。

就学は悩みました。地元の子どもたちの中で育てて欲しい気持ちはありましたが、「小学校の生活が息子にとって楽しい生活になるのだろうか？」「息子にとって楽しい時間は養護学校の方があるのではないか？」そんな思いで養護学校を選びました。

息子にお友だちを作ってあげたいという気持ちはどうしても捨てることはできませんでした。そこで養護学校の入学時から、地元の小学校との交流を希望していました。やはり、すぐの交流は難しく時間は過ぎていきました。でも養護学校の先生方は前向きに対応してくださいました。

そして、2年生の2学期、ようやく交流を実現することができました。交流が始まる前に養護学校の校長先生、教頭先生、担任の先生、母親、本人で〇〇小の先生方にあいさつに伺いました。長い間、実現することを願っていた交流ですのでウキウキした気持ちと受け入れてもらえるかという不安な気持ちで、とても緊張していましたが、交流クラスの担任の先生は「△△くん、待っていたよ。」と温かく迎えてくださり、廊下で会う先生方みなさんも声をかけてくださり、学校全体で迎えてくれていることをすぐに感じ、気持ちが高まりました。

第1章 支援籍について

5. 支援籍のねらいと効果

支援籍のねらい

1. 障害のある児童生徒とない児童生徒と一緒に学ぶ機会の拡大を図ります。
2. 特別な教育的支援を必要とする児童生徒を含め、障害のある児童生徒一人一人にきめ細かな教育の実現を図ります。
3. 障害のない児童生徒の障害者に対する差別や偏見等の心の障壁を取り除きます。
4. 障害のある児童生徒が個々のニーズに応じた支援を受け、地域とのつながりを広げます。

支援籍の効果

1. 障害のない児童生徒にとっては、障害者に対する差別や偏見といった心の障壁が取り除かれます。
2. 障害のある児童生徒にとっては異なる環境への対応力や、大きな集団での社会性が培われ、さらには地域とのつながりが広がることとなります。

【学級活動の時間】

大きな声で歌いました。



第1章 支援籍について

6. 支援籍の種類

通常学級支援籍

特別支援学校に在籍する児童生徒が小中学校の通常の学級で学習を行います。

- 運動会、文化祭等の学校行事や、音楽、体育、生活、総合的な学習の時間、給食、休み時間、清掃などに参加します。
- 回数は児童生徒によって異なり、障害の状態や個人のニーズによって年数回から週に1回まで様々に実施されます。
- 「お客さん」ではなく、同じ学校に籍のある「仲間」として一緒に学習します。

[支援籍学習授業風景\(動画\)\[WMV/7.40MB\]](#)

【体育の授業】



みんなで仲良く
マットで遊ぼう

小中学校の特別支援学級に在籍する児童生徒が小中学校の通常の学級で学習を行います。

- 音楽、図工、体育、生活、総合的な学習の時間などに参加します。
- 大きな集団で学習することにより、少人数による学習で得ることのできない経験や効果を得ることができます。
- 「交流及び共同学習」の趣旨を踏まえ、適切に進めます。

特別支援学級支援籍

通常の学級に在籍する児童生徒が、小中学校の特別支援学級で学習を行います。

- 発達障害(LD、ADHD、高機能自閉症など)も含め、通常の学級において特別な支援が必要な児童生徒について、個別に専門的な学習を行います。

特別支援学校支援籍

通常の学級や特別支援学級に在籍する障害のある児童生徒が、特別支援学校で学習を行います。

- 弱視、難聴、言語障害、情緒障害、肢体不自由などの障害に基づく困難を改善するための専門的な学習(自立活動)などを行います。

特別支援学校のセンター的機能の一環として、小中学校に在籍している障害のある児童生徒について、直接的に指導を行うことができます。

特別支援学校支援籍保護者の話

特別支援学校支援籍保護者の話

息子は、特別支援学校で支援籍学習を受けています。この支援籍を選んだ理由は一人一人のニーズに合った、より専門的な訓練を受けたいということと、地域の学校でたくさん楽しいこともあるとは思いますが、体の不調や、思うようにいかない苛立ちを、楽しいこと以上に抱えているのではないかという心配も日々あったということです。そんなことから、〇〇養護学校で、一年生の二学期より支援籍学習をスタートさせました。

毎週水曜日、小学校の授業を2時間目まで受け、〇〇養護学校へ向かいます。そして、3校時8名の児童と共に“自立活動”「心と体のお勉強」として、より専門的な訓練を学びます。〇〇養護学校のお友だちとも次第に仲良くなり、自然な会話を楽しんでいます。

この支援籍をスタートして良かったと思うことはたくさんありました。心と体が一体であり、奥が深いために、幼い頃から音に敏感であったり、デリケートな面が少なくありませんでした。それが、ただわがままだけではなく、SOSとして訴えていたこと、緊張すると顔面に毛細血管が浮き出ること、あまりにも奥深く気付くことが出来なかったことなどをたくさん学びました。

情緒面のリラックス法などを自宅でも行うと「落ち着く」と言ったり、うとうとし始めるなど、まさに結果が目に見えて出てきました。本人の意思を尊重しながら、そして、心と体を十分に休息させる大切さを学ぶことができました。

心と体の授業が終わると、支援籍の担任の先生が“支援籍ノート”という連絡帳を書いてくれます。〇〇養護学校の先生、小学校の担任、そして保護者と三者が記入する欄があります。このカードが体の面においても、小学校側に理解していただく上で大きな役割を果たしてくれています。

支援籍の授業日だけでなく、体育祭や文化祭などのイベントにも必ず声をかけていただき、一緒に参加させていただいています。”お客さん”ではなく、一緒に学習をする仲間として、受け入れてくださることで、本人だけでなく、毎回自分も元気をもらっています。

地域の小学校で得られていることもたくさんありますが、私自身理解と苦しみ、孤独感を感じることも少なくはありませんでした。そんな中で、元気に声をかけていただき、救われたことは大きかったと思います。

第1章 支援籍について

7. 教育課程との関わり

教育課程上の位置づけ

支援籍学習は特別支援学校または児童生徒が居住する地域の小中学校で行われます。

支援籍学習を実施する場合は、支援籍児童生徒の在籍している学校の教育課程上に位置付けられる必要があります。

その上で指導の目標などを明確にし、適切に評価を行います。

支援籍の評価

支援籍学習は、在籍する学校の授業として実施されるので、在籍校が教育活動としての適切な評価を行う必要があります。予め評価項目、評価方法等について、事前に学校間で十分に打合せをします。

【算数の授業】

コンピュータで、先生の話す言葉がよく分かります。



第2章 通常学級支援籍の進め方

通常学級支援籍の効果的な進め方

通常学級支援籍実施までの手順(例)

- (1) 支援籍学習について保護者説明会
- (2) 希望調査（アンケート等による回答）
- (3) 支援籍学習候補者の決定
 - ・ 候補者を決定する際には、保護者の希望だけでなく、その子にとって支援籍学習を実施する上でのねらいを明確にすることが大切です。
 - ・ 共に学び共に育つ観点からも、継続して実施することが大切です。
- (4) 市町村教育委員会への報告
- (5) 支援籍校への連絡・挨拶(管理職・コーディネーター)
 - ・ 校長から校長へ連絡・挨拶をするのが望ましく、支援籍校へ校長、コーディネーターで児童生徒の説明もかねて挨拶に行くことが望まれます。
 - ・ その際、教育支援プランA等を持参し説明をすることが大切です。
- (6) 支援籍学習の内容について打合せ(担任・コーディネーター)
 - ・ 支援籍児童生徒の担任とコーディネーター、支援籍校の担任とコーディネーターで打合せ、日程、受入体制、内容等について打合せを行います。
 - ・ その際、双方にとって有意義な活動を考えることが大切になります。
- (7) 支援籍学習の実施
- (8) 支援籍学習の評価及び反省

支援籍連絡会議の実施

支援籍を効果的に実施するため、特別支援学校が学区内の支援籍校の小中学校のコーディネーター等との連絡会を開催し、連携を図っている場合があります。

開催については、その年度の支援籍実施児童生徒が決定し、支援籍学習第1回目が始まる前と、支援籍学習が全て実施された後の年間2回、特別支援学校において開催されています。

支援籍連絡会議の内容について例示すると次のようになります。

支援籍連絡会(前期)	支援籍連絡会(後期)
1. 学校見学 2. 全体会 ・ あいさつ ・ 日程説明	1. 全体会 ・ あいさつ ・ 日程説明 ・ 今年度の反省

<ul style="list-style-type: none"> • 「支援籍学習」について • 諸連絡 3. 移動 4. 個別打合せ(各支援籍児童学級担任) 	<p>(支援籍校、保護者アンケートをもとに)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 次年度の実施に向けて • その他 <p>2. 個別打合せ(各支援籍児童学級担任)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 今年度の反省 • 来年度に向けて
---	--

支援籍連絡会議を実施することにより、支援籍学習について各支援籍校の共通理解が図られ、支援籍校同士の情報交換を行うことができるとともに、特別支援学校の学校見学等を組み入れることで、小中学校の先生方に、特別支援学校について、さらには支援籍児童生徒の学習の様子などについて理解してもらうことができます。

事前の打合せ

連絡会議を実施しない場合でも、支援籍学習を実施する前に、特別支援学校のコーディネーターと支援籍校(小中学校)のコーディネーターまたは担任による打合せを綿密に行うことが大切です。

打合せの内容としては、実際の支援籍学習のねらいや活動内容、活動の場面における役割分担等になります。

事前指導について

支援籍学習を円滑に進めるためには事前学習を行うことが大切になります。

支援籍校(小中学校)の児童生徒たちに対する事前指導には、障害についての正しい知識、障害のある子どもたちへの適切な支援や協力の仕方等についての理解をうながすことが考えられます。

また、事前学習の外にも、小中学校の校内に支援籍コーナーを設け、支援籍児童生徒を紹介したり、特別支援学校について情報提供をすることも大切になります。さらに小中学校の学校通信等に支援籍についての記事を掲載してもらい、小中学校の保護者や地域の方々に理解を図っておくことも必要になります。

支援籍児童生徒(特別支援学校)に対する事前指導には、積極的な行動、支援や協力の求め方、断り方、自分の気持ちの表現の仕方等についての理解を図ることが考えられます。

支援籍コーナーの掲示(例)

学校通信紹介記事(例)

事後指導について

支援籍学習を実施した後は、事後指導として、支援籍学習を通して、感じたこと、思ったことを発表し合ったり、手紙や感想文を書いたり絵に描いたりする機会を設けるなどしてまとめ、関心を一層深めることも大切です。

小学校3年生の手紙より



Aくんへ
今日は来てくれてありがとう。
たくさんなばたに手がたが
はれてよかったね。
2年生の時も来たよ。Aくんも
手がたじょうずにできたね。
わたしもじょうずにできたよ。
今日はAくんにメダルをあげたよ。
たいせつにね。
今日はとっても楽しかったね。
また、2学期3学期もおおうね。

小学校5年生学級通信より

私は、この交流会でBくんからいろいろなことを学び、6ヶ月の間成長した気がします。私たちがBくんと学習したことは、ほかではない学習でした。6ヶ月間、Bくんがいろいろなことを教えてくれました。私たちとBくんが出会えて良かったです。

小学校4年生作文より

B子ちゃんとはじめて会ったのは1年生のときの学どうだったね。そのとき、先生に手話をいっぱい教えてもらって、B子ちゃんと話しができるようになったね。私ははずかしがり屋だったけれど、B子ちゃんと話しをするようになってみんなの前で話しをするのが上手になったよ。ありがとう。

2年生のとき、はじめてB子ちゃんが学校に来たとき、びっくりしたけどうれしかったよ。

- 中 略 -

3年生になって、また音楽や運動会でいっしょにがんばることができてすごくうれしいよ。これからも、手話をもっといっぱいおぼえて、B子ちゃんといっしょに遊んだり、勉強したいと思っているよ。わたしも自分でおぼえようと思うけど、B子ちゃんもいっぱい教えてね。これからもずっと友だちだよ。

実施後の反省について

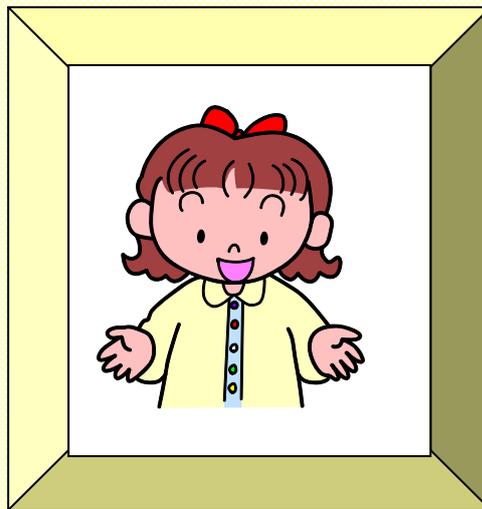
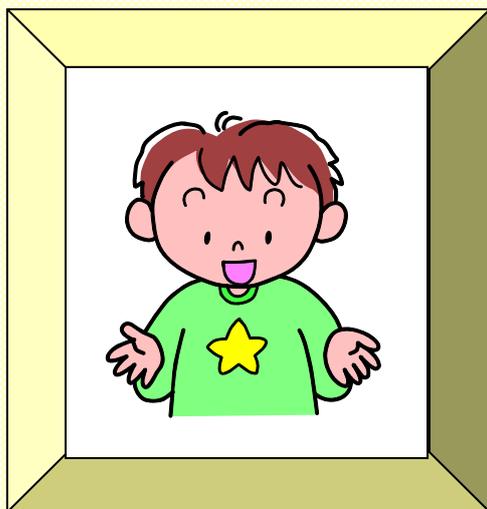
さらに年度末には、支援籍学習について評価・反省を行うことが大切です。支援籍学習の活動についてどう感じたか、効果や課題、反省点などを踏まえて、今後どのように継続していきたいかなどについて、特別支援学校と小中学校の双方の話し合いを持つことが大切です。

反省記入用紙(例)

支援籍紹介の掲示（例）

★支援籍★友だちの紹介

今年度、〇〇市にあります〇〇養護学校の2名の友だちが、本校に支援籍を置いて学習をおこないます。2名の友だちとも本校の学区に住んでいる地域の仲間です。みんなで仲良く勉強しましょう。



- ・〇〇養護学校の△△くんです。
- ・5年1組に支援籍を置いて勉強します。
- ・△△くんは□□地域に住んでいます。

※△△くんの好きなこと、得意なこと等を紹介することが大切です。

- ・〇〇養護学校の△△さんです。
- ・3年2組に支援籍を置いて勉強します。
- ・△△さんは□□地域に住んでいます。

※△△さんの好きなこと、得意なこと等を紹介することが大切です。

〇〇養護学校の学習の様子



〇〇養護学校

.....

自立活動の時間に体の学習をする△△くん……

養護学校のこと、養護学校の授業のこと、写真やコメントを入れて紹介するなど…。

第1回支援籍学習の様子



支援籍学習の様子について、写真やコメント、感想文などをまじえて紹介する。

担任より



保護者より



本人より



小学校のPTA会報より

枠をこえて・・・

今、〇〇小では小学校という「枠」の中だけではなく、地域の様々な人々とふれあい、学習する試みが行われています。このような「交流」により子どもたちの社会性が育まれていくのを感じます。今回はA養護学校との交流について紹介します。

「〇〇小のみんなと友だちになりたいな」

12月18日、D養護学校の2年生Eくんが、〇〇小の2年生の友だちと一緒に授業を受けました。内容はパソコン学習や本の読み聞かせ、音楽などです。

Eくんのように〇〇小学校の通学区域に住みながら、特別支援学校に通っている児童生徒がいます。今回の授業はその児童達と交流をする支援籍学習の第一歩として始まったものです。

自己紹介の時は、みんなが緊張した表情でしたが、休み時間には手をつないで校庭へ飛び出すなど微笑ましい光景も見られました。

障害のある児童とない児童と一緒に学び、遊ぶ・・・。このような交流が広がり、そして深まっていくことで、お互いを理解することができ、心の成長につながっていくのではないのでしょうか。

【出会いのあいさつ】

お久しぶりです。〇〇さん、よろしく。



通常学級支援籍 年度末 反省個票(参考例)

平成 年 月 日

取 扱 注 意

※手書きで結構です。
 ※原本は個人ファイルへ
 ※コピーをコーディネーターまで } お願いします。

記入者氏名

児童生徒氏名		学 部		学 年		性 別	
支援籍校 (市町村)		支援籍校 (TEL & FAX)	TEL				
支援籍校 (校名)		支援籍校 (担任氏名)	FAX				
今年度の支援 籍実施状況							
実施時期 について	支援籍校	<input type="checkbox"/> 適当 <input type="checkbox"/> 不相当 <input type="checkbox"/> その他	備考:				
	〇〇養護学校	<input type="checkbox"/> 適当 <input type="checkbox"/> 不相当 <input type="checkbox"/> その他	備考:				
実施回数 について	支援籍校	<input type="checkbox"/> 適当 <input type="checkbox"/> 不相当 <input type="checkbox"/> その他	備考:				
	〇〇養護学校	<input type="checkbox"/> 適当 <input type="checkbox"/> 不相当 <input type="checkbox"/> その他	備考:				
実施内容 について	支援籍校	<input type="checkbox"/> 適当 <input type="checkbox"/> 不相当 <input type="checkbox"/> その他	備考:				
	〇〇養護学校	<input type="checkbox"/> 適当 <input type="checkbox"/> 不相当 <input type="checkbox"/> その他	備考:				
来年度の支援籍 取得意向について	<input type="checkbox"/> 希望あり <input type="checkbox"/> 希望なし <input type="checkbox"/> 未定						
来年度の支援 籍学習の方向 性について	実施時期について						
	実施回数について						
	学習内容について						
	そ の 他						

第3章 通常の学級における支援籍学習の流れ

通常の学級における支援籍学習を効果的に進めるために

通常の学級における支援籍学習を始める際に

コーディネーターや担任による出前授業(事前学習)

- 支援籍学習を実施する前に、特別支援学校のコーディネーターが支援籍校で総合的な学習の時間等を利用して「障害や病気について」「支援籍児童生徒について」の話をして、理解を深めておくことが有効になります。
- さらに、支援籍校の児童生徒が自ら考え、自ら関わられるように、事前学習の中で、支援籍児童生徒と共に活動をする上での質問を挙げてもらい、丁寧に分かりやすく答えることで、支援籍学習がスムーズに進むようにすることも大切です。

(児童からの質問例)

もっと知りたいGさんのこと

- ○○養護学校ではどんな勉強をしているのですか？
- 好きな勉強は何ですか？
- 好きな遊びは何ですか？
- 好きな食べものは何ですか？
- 得意なことは何ですか？
- 休みの日には何をしていますか？
- どんな時に喜んでくれますか？

[事前学習風景\(動画\)\[WMV/1.48MB\]](#)

運動会、全校集会等での校長先生のお話(紹介)

- 運動会や全校集会等で全校の児童生徒及び保護者の前で支援籍児童生徒について校長先生がお話(紹介)をすることにより、ノーマライゼーションの意味が伝わり、同じ地域に住んでいる仲間として、お互いに確認することができます。

校長先生の挨拶(例)

支援籍学習初日の保護者の話

- 支援籍学習の初日、支援籍校の児童生徒のクラスや学年等の前で、支援籍児童生徒の障害や病気について、障害があること、病気になったことに気付いてからの保護者の気持ち、支援籍学習に期待することなどの話をするのは、障害理解教育の視点からも効果的です。

【お母さんの参観】

お母さんも、みんな
の人気者です。



保護者の話(例)

支援籍学習の内容について

小中学校の授業日課を変更せずに、参加できる授業・学習の活動内容を選択し、学習に参加します。

- 小中学校の日課や学習内容を変更することなく支援籍学習を進めることができます。
- 事前に授業内容を確認し、授業を進める小中学校の教員(MT)と、付添の特別支援学校の教員(ST)の役割分担を明確にしておく必要があります。

小中学校の学級活動、総合的な学習の時間等に参加します。

- 小中学校の年間計画に沿った内容にそのまま参加することはもちろん、双方の学校の話し合いにより、支援籍児童生徒と小中学校の児童生徒の交流を深めるための内容を計画をしたり、交流及び共同学習や福祉教育の一環として、ねらいを明確にし、双方にとって有効な活動となるように心がけることが大切になります。

授業に限らず、業前運動、給食、清掃、休み時間などに参加します。

- 児童生徒の実態によっては、学習に限らず、できることに参加し、共に活動するという観点から、業前運動、給食、清掃、休み時間などに参加します。
- 地元の小学校の業前運動に参加し、その後、特別支援学校に登校し、特別支援学校の授業に支障なく参加している児童もいます。

[業前運動への参加\(動画\)\[WMV/4.22MB\]](#) 業前活動中心の取組

運動会、文化祭、音楽会などの活動に参加します。

- 児童生徒の実態に考慮し、運動会、文化祭、音楽会などの学校行事で、一緒に参加できる場面に参加をします。
- その際、事前の練習から参加し、支援籍児童生徒が見通しを持って本番に望めるよう配慮することが必要です。

- 小中学校の保護者や地域の住民が参加している場合、行事の中で支援籍児童生徒について紹介する機会を設けて、同じ学区に住んでいる仲間ということを知ってもらう機会とすることも大切です。

【運動会の様子】

ダンスに参加しました。



[運動会への参加\(動画\) \[WMV/3.09MB\]](#)

手紙やビデオレターによる交流活動

- 障害や病気の状況などにより、支援籍学習の間隔があいてしまったり、支援籍学習が年度の途中で途切れてしまう場合などは、せっかく育てた交流の芽をつむことになりませんので、継続していくことが大切です。
- 支援籍学習の合間に手紙やビデオレター、通信などで間接的に交流すると、支援籍学習の際により効果があがります。
- 手紙やビデオレターによる間接交流は、支援籍学習を始める前に「よろしくね」という意味合いのメッセージ交換としても有効になります。

【体育の授業】

中学校の体育は、きつ
けど楽しいです。
えいっ！



支援籍学習運動会当日の校長先生の話

皆さん、おはようございます。

秋晴れですね。すばらしい天気恵まれ、大勢のご来賓の方々においでいただきました。

— 中略 —

最後にご参会の皆様にお知らせをいたします。入場行進でお分かりいただけたかと思います。車いすで「〇〇〇〇」さんが入場しました。

本校では、障害のある子も障害のない子も、一緒に生活や学習を行うというノーマライゼーションの理念に基づいて、教育を推進しております。9月14日の音楽集会に続いて今日が2回目の参加です。

「〇〇〇〇」さんは、本校の学区である△△地域に住んでいます。

障害があるため、スクールバスに乗って□□養護学校に通い、障害を克服・改善するための専門的な勉強に頑張っており取り組んでいます。

「地域の学校に行ってみたい」「地域に友だちを作りたい」そんな保護者の方の願い、本人の思いが少しでも生かせるように、□□養護学校の先生方や県教育委員会、市教育委員会の指導と支援をいただき、何よりも同じクラスの5年2組をはじめ、本校の児童全員が「正しい心とやさしい心」をもって、誰もが、つまり、男女のことや、障害のあるなしや、上級生・下級生、お年寄りや若い人お互いが、安心して、仲良く学べる社会、ここでは学校ですが、それを作ろうとしているのです。

私たち自身が、人と人とを隔てる心の中の壁をなくす。つまり、心のバリアフリーを行い、一人一人を大切にする教育を実現する。その一つの表れなのです。

しかし、この崇高な理念も保護者の皆様、地域の皆様のご理解とご協力がないと実を結びません。どうか、その点をよろしくお願いいたします。

支援籍学習初日のお母さんの話

はじめまして ○○子です。

— 中略 —

学校は、△△市にある△△養護学校に、スクールバスで登下校しています。

○○子は生まれつき病気で、自分で歩いたり言葉を話したりすることができません。

視力も弱く、はっきりと物を見分けることはできません。

移動するときには、車椅子を人に押してもらっています。

○○子は生まれたときからこの生活を続けているので、これが自然の状態になっています。

そんな○○子ですが、多くのハンディキャップがあっても、好きなことがあります。

色々な音を聞くことです。人のお話、絵本の読み聞かせ、楽しい音楽、鳥のさえずり、虫の声、さらには風の音なども楽しみのひとつです。

○○子の耳は目が良く見えないせいか、健康な人よりも敏感なのかもしれません。そして笑った時にはとてもよい笑顔になります。

さて、長くなりましたが、○○子には兄弟姉妹がいないので、近所に知り合いがいません。

車椅子の○○子を見つけたら、どうぞ声をかけてください。

皆さんとの出会いがお互いに楽しい時間となるように、どうぞよろしくお願ひします。

「朝の学習」を中心とする支援籍学習の取組概要

B養護学校特別支援教育コーディネーター

1 対象児童

B養護学校小学部2年、女子

小1年の10月からA小学校において支援籍学習を始め、今年で2年目を迎える。A小学校には姉が在籍。

2 ねらい

保護者は、「地域に仲間ができ、理解が得られること」を期待して支援籍学習を希望した。担任は、「集団への参加」や「主体的に行動」する機会になることを望んでいる。

3 日程

時刻	内容	備考
7:30～7:45	通学班で登校	保護者が通学班に付き添う
7:45～8:10	学校着、教室へ、トイレ、荷物整理、着替え	昇降口で特別支援学校担任と待ち合わせ
8:10～8:20	校庭へ、友だちと自由遊び	アヒル小屋周辺で遊ぶことが多い
8:20～8:35	集合、元気アップタイム（朝の運動）	整列、準備運動、運動*、整列、行進
8:35～8:45	朝の会（教室）	呼名、今月の歌など
8:50	下校、バス停へ	保護者がバス停まで付き添う
9:00	スクールバスに乗車	時間延長の際は、保護者が特別支援学校へ自家用車で送る
9:15	B養護学校着	

*元気アップタイムは、季節によって、持久走、サーキット、大縄跳び、運動会練習などがある。

4 活動内容

（1）「朝の活動」を中心に参加

本校の支援籍学習は、「〇〇ちゃんを迎える会」などの交流行事ではなく、**小中学校の「通常の教育活動」への参加を基本**としている。理由は以下の2点である。

第1に、「迎える会」などの行事を毎回企画することは、小中学校にとって大きな負担であり、初回は良くても継続実施は望めないこと。第2に、特別な機会として支援籍学習を設定することで、通常の学級の児童生徒が「自分たちと同じ仲間」というよりも「自分たちとは違う特別な存在」に感じてしまうことが懸念されたからである。

支援籍学習は、「共に生きる仲間」という関係を育むことにある。それには、小中学校の児童生徒と同じように登校し、同じように通常の活動に参加することが良いのではないかと考えた。これらを踏まえ、なぜ「朝の活動」に着眼したのか理由を以下に記す。

（2）朝の活動に取り組む理由（朝の活動の長所）

ア 指導内容の面から

① 通学班での登校や朝の会での呼名が、仲間意識や所属感を生む

通常の学級の児童が教室に全員そろって「ようこそ！」と一人の友だちを迎えるのは、初回は良くても交流を継続していくとなると不自然であるように思われた。

朝の時間は、同じように通学班で登校し、みんなと一緒に昇降口から教室に入るなど、「みんな一緒」という点で自然である。そして、朝には「おはよう」の挨拶がある。お互いが自然な形で声を掛け合うチャンスがある。

また、朝の会ではクラスの友だち同様に呼名してもらっている。この呼名こそが自分

たちのクラスの一員としての「所属感」を生み出しているのではないか。ちなみに呼名の順番は、最後に付け足されるのではなく、五十音順の位置で呼んでもらっている。

② 子ども同士が自由に触れ合う時間がある

授業だけでは、子ども同士の関わりは持ちにくい。休み時間などの自由に触れ合う機会が欲しいと考えた。

登校後の時間には、教室に自由な雰囲気があり、子ども同士でトイレに誘い合ったり（案内したり）、「校庭へ行こう」と声を掛け合う機会が多い。校庭に出てからも集合までの時間は、自由に遊べる。

③ 繰り返し同じ学習活動に取り組むため、見通しが持ちやすい

運動は、内容的に取り組みやすいと考えられた。しかし、体育の授業は、題材が時期によって変わってしまうため、本児が混乱してしまうのではないかと予想された。

元気アップタイムは、基本的に毎回、内容や場所、流れがほぼ一定であり、見通しが持ちやすく、本児の特性にも合った活動と考えられた。

④ 活動にメリハリがあり、集中して取り組める

小学部低学年の本児が小学校の45分授業に集中し続けることは難しいと思われた。

その点、朝の元気アップタイムは、15分程度の活動である。朝の会でも、教室で着席する時間は5分と短い。その前後も、荷物整理→着替え→校庭へ移動、など何をすればいいのかが明確である。長時間じっとその場で集中する負担を強いられることも無い。

このように小学校の朝の活動は、動きや移動などを含んだメリハリのある1時間となっており、本児が主体的に参加しやすい活動となっている。

イ 指導体制の面から

支援籍学習には、原則的に本校担任が引率している。引率するためには、校内の指導から教師が一人抜けなければならない。

しかし、朝の活動に参加する支援籍学習は、9時前に小学校での活動を終了するために、それから特別支援学校に移動しても引率教員も本児も本校の登校9時15分に十分に間に合う。本児の場合、スクールバス(以下、SB)のバス停がA小学校の近くにあるため、普段と変わらずにSBに乗車して登校できる。担任も登校指導までには特別支援学校に戻ることができるので、指導への支障はほとんど無い。

(3) その他の活動

朝の活動以外にも、平成19年度は、「運動会」と「持久走大会」にも参加した。A小学校は、元気アップタイムの中で、運動会や持久走大会の練習に取り組んでおり、本児も通常の支援籍学習の延長としてこれらの行事に参加した。

5 回数・頻度

毎週1回参加した。平成19年度は、年間で計30回実施した。

6 支援籍学習の指導体制

(1) 引率体制

ア 通学は、保護者が付き添う（通学班で近所の友だちと一緒に登校）

イ 学習活動は、特別支援学校担任が付き添っている

(2) 本校担任が引率する理由（支援籍学習の引率担任の役割）

支援籍学習の目的の一つに、通常の学級の児童生徒の障害児・者に対する態度がポジティブに変容することがあげられる。それには、子ども同士が単に活動を共にするだけではなく、互いのコミュニケーションを促すための支援が不可欠であると先行研究では指摘されている。

この支援ができるのは、本校の担任であり、それこそがノーマライゼーションの理念を実現する特別支援学校の専門性に他ならないと考えている。

本校の支援籍学習では、①支援籍校の学級担任への支援、②子ども同士の関わりへの支援、③本校生徒の活動への支援の3点を引率担任の役割としている。

(3) 通常の学級担任の支援・関わり

クラスの一員として扱ってくれている。その日の朝の黒板には、必ずメッセージを書いていた。学級の友だちには、「かけ算が得意な子もいればそうでない子もいる。それと同じ」と説明して下さる。呼名も五十音の順番で呼んでくれた。本校の文化祭にも来校してくれた。

(4) 両校の打合せ

ア 連絡調整窓口 (A小：教務主任、B養護学校：コーディネーター)

イ 連絡手続き 4月にコーディネーター間の連絡、5月から実施、3月に年間の評価会。

7 子どもたちの変容の様子

(1) A小学校の子どもたち

一言で言うと、ごく自然な形で“仲間の一人として”本児へ接している。その根拠となるエピソードを一つ紹介する。

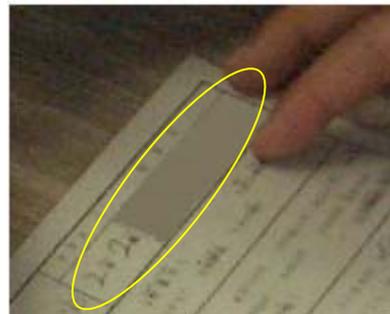
その日の元気アップタイムは、サーキット。馬跳びの際、転んでしまい保健室で応急処置をしてもらうことに(写真①)。クラスの友だちは、その時の状況を振り返りながら自主的に記録票に記入してくれた。(写真②)。その手元をよく見ると、そこには「2年2組、〇〇〇〇」と記されているではないか!「B養護学校の〇〇〇〇」でもなく、所属を空欄にするでもなく(写真③)。クラスの一員として見ているからにはほかならない。



① 転んだので保健室で処置



② 友だちが記録票に記入



③ よく見ると…

「2年2組〇〇〇〇」!



④ 処置を終え教室へ
優しく手を添えて!

(2) 本児 (教育支援プランより)

毎週1回の支援籍学習が定着し、A小のクラスにも慣れ、A小の児童も自然に受け止めてくれていた。持久走大会等色々な体験が成長の糧になり、その自信が次のやる気につながっていると思う。まだ跳ぶことのできない長縄もみんなの前で、「頑張ります」と発表する。

8 保護者の感想 (「支援籍 NEWS レター (平成 18 年 12 月発行)」の記事より)

支援籍が10月から始まり、〇〇がA小に行った回数も8回になりました。最初は全く参加する様子も無く、「大丈夫かな?」と思いましたが、回を重ね、11月の終わり頃からは少しずつ皆の活動に加わることができるようになりました。〇〇コーディネーターと担任の先生方の支えで12月5日には、最初から最後まで全て参加することができました。その時は本当に嬉しかったですね。〇〇だって「やればできるんだ」と私も思えましたし、本人も「できた」という自信に確実につながっているようでした。

A小の子ども達もまだ1年生ということもあり、とても自然に受け入れてってくれています。顔と名前もすぐ覚えてくれたようで、先日も下校途中で「〇〇〇〇ちゃ〜ん」と何人かのお友だちが手を振ってくれました。「いつから一緒に勉強するの?」と嬉しそうに聞かれたり…。

まだまだ、モデル・ケースとして始まったばかりですが、3年後6年後、この取り組みが色々な面で子ども達の本当の意味での支援として、芽が出ていることに期待したいです。

第4章 通常の学級における支援籍学習で心がけること

通常の学級における支援籍学習を行う際の配慮

通常の学級における支援籍学習を計画する際の配慮

通常の授業で実施する場合は、授業内容を変更する必要はありませんが、授業の中で支援籍児童生徒が、自ら活動に取り組める場面を設定・準備することが大切になります。

- できる限り、支援籍児童生徒の得意なことを取り上げ、支援籍校(小中学校)の児童生徒が、その子の持っている力を確認できるような場면을学習活動の計画の中に設定できることが望ましいと考えます。
- 授業の中で、支援籍児童に対して配慮する事項について指導案に記入して支援が行き届くようにします。

算数(指導略案)

[友だちの前でピアノ伴奏をする\(動画\)\[WMV/2.76MB\]](#)

[友だちと押し相撲をする\(動画\)\[WMV/2.48MB\]](#)

支援籍学習の中で、支援籍校(小中学校)の児童生徒と、支援籍児童生徒が自然に関わる場面を設定・準備することが大切になります。

- 学習(活動)グループを工夫したり、中心的に関わる児童生徒を予め決めておき、その児童生徒のリードで関わりを広げることも考えられます。
- 活動の中でゲーム的な要素を取り入れ、児童生徒同士が自然に関わるようにします。

音楽の時間(授業の流れ)

授業中における配慮

支援籍学習が行われる中で、引率の特別支援学校の教員は、児童生徒同士の関わりがより深められ、授業が効果的かつ円滑に進むように、アシスタントティーチャーとして動くことが大切になります。

- 関わり方が分からないで、声かけができずにいる小中学校の児童生徒には、引率の特別支援学校の教員が関わり方について分かりやすく具体的に教えることが大切になります。
- 小学校低学年の児童は、ごく自然に関わることができる場合が多いのですが、戸惑っている児童には、実際に関わり方を見せたり、直接手をとって、関わりの橋渡しをしたりすることが大切になります。
- 児童たちから寄せられる障害についての素朴な疑問等について、ていねいに分かりやすく応えてあげる必要があります。

([特別支援教育課HP](#) ノーマライゼーション指導教本 児童生徒のQ&A)

- 高学年の児童や、中学生に対しては、関わり方や、声かけの仕方、その場での動き方について、言葉でアドバイスし、児童生徒が自ら気付き、自ら考え、自ら行動できるように導いてあげることが大切になります。

支援籍学習を発展させるために(実践例)

支援籍学習2年目を迎えたH小学校6年3組では、2学期に入って、Bくんとの交流をさらに発展させるために、Bくんとの交流についての児童の思いや願いをアンケートで聞いてみました。

B君について

1 Bくとどんな交流がしてみたいですか。

- ・いっしょに遊びたい ・体育をいっしょにやりたい ・1日いっしょに過ごしたい
- ・Bくんの学校を知りたい ・読書会をしたい ・もっと積極的に声をかけたい
- ・Bくんのお楽しみ会をしたい ・持久走大会をしたい

2 Bくんについてあなたが考えていることを教えてください。

- ・Bくんはどんなことでも一生懸命にやります ・6年3組の大切な一員です
- ・障害があっても僕たちと同じです
- ・もっとBくんのことを知りたいです ・いっしょに勉強する友だちです
- ・Bくと会う時間を大切にしたいです ・みんなで力を合わせてやっていきたいです

子どもたちの願い

- Bくといっしょにもっといろいろなことがしたい
- Bくんの学校を知りたい

「Bくとその級友たちとの交流会」の計画・実施

実施目標

- ・障害の有無に関係なく、共に学び、豊かな人間関係を育成する。
- ・一人一人の違いを認め合い、共に支え合っていこうとする心情や実践意欲を高める。
- ・障害のある人たちへの理解を深める。

実施内容

- ・本校児童がD養護学校を訪問し、小学部の児童と交流を深める。
- ・ 9:10 小学校発 9:30 養護学校着(公用バス)
- ・ 9:30~10:15 小学部との交流
- ・ 10:20~11:30 課題別学習・校内見学
- ・ 11:40 養護学校発 12:00 小学校着

支援籍学習「算数」学習の流れ・病弱の児童（例）

学 習 活 動	○ 教師の働きかけ ・ 児童の反応	※ 指導上の留意点 □ 評価 ★ 支援籍児童への支援・助言	分																									
<p>1 本時の課題をとらえる。</p> <p>①商が4になるわり算をつくる。</p> <p>②2つの式で、わられる数とわる数の決まりを調べる。</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">わり算のきまりをみつけよう。</p> <p>○商が4のわり算をカードに書く。</p> <p>・ $4 \div 1 = 4$ $8 \div 2 = 4$ $12 \div 3 = 4$ $24 \div 6 = 4$ $36 \div 9 = 4 \dots$</p> <p>○わられる数を小さい順や大きい順に並べて、どんなきまりがあるか考える。</p> <p>・ わられる数とわる数を2倍にしても商は同じ。</p> <p>・ わられる数とわる数を3でわっても商は同じ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">$4 \div 1 = 4$</td> <td></td> <td style="text-align: center;">$2 \text{倍} \downarrow$</td> <td style="text-align: center;">\downarrow</td> <td style="text-align: center;">2倍</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">$8 \div 2 = 4$</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;">-----</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">$12 \div 3 = 4$</td> <td></td> <td style="text-align: center;">$1/3 \downarrow$</td> <td style="text-align: center;">\downarrow</td> <td style="text-align: center;">$1/3$</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">$4 \div 1 = 4$</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> </div>	$4 \div 1 = 4$		$2 \text{倍} \downarrow$	\downarrow	2倍	$8 \div 2 = 4$					-----					$12 \div 3 = 4$		$1/3 \downarrow$	\downarrow	$1/3$	$4 \div 1 = 4$					<p>※本時の課題を確認し、ノートに書くよう促す。</p> <p>★ノートに書けたか、確認する。</p> <p>※カード（5枚）にわり算の式を書いて、並べ替えが容易にできるようにする。</p> <p>★活動内容を理解しているか（カードに商が4になるわり算の式が書けているか）隣の児童と確認し合い、自信が持てるようにする。</p> <p>※カードを順番に並べ、ノートに1行おきに貼り、書き込みをするよう促す。</p> <p>※手がつけられないでいる児童には、「2つの式を選んで、わられる数を小さい順に並べると、わられる数は何倍かな。わる数は何倍かな。」と助言する。</p> <p>★2つの式を選び、小さい順にノートに貼るよう助言し、2つのわられる数とわる数がそれぞれ何倍になっているか、考えるようにする。</p>	10
$4 \div 1 = 4$		$2 \text{倍} \downarrow$	\downarrow	2倍																								
$8 \div 2 = 4$																												

$12 \div 3 = 4$		$1/3 \downarrow$	\downarrow	$1/3$																								
$4 \div 1 = 4$																												
<p>2 問題を読み立式する。</p>	<p>○教師が板書する問題文をノートに書き、立式する。</p> <p>・ $150 \div 50$</p>	<p>※問題文を板書し、教科書はこの時点では使用しない。</p> <p>★ノートに書けているか、確認する。</p>	2																									
<p>3 計算のしかたを考える。</p> <p>①自分の考えを説明する。</p>	<p>○計算のしかたを考える。</p> <p>・ $150 \div 50 = 3$ $\downarrow \div 10 \quad \downarrow \div 10$ 等しい $\uparrow \times 10$ 等しい $15 \div 5 = 3$</p> <p>○各自の考えを発表する。</p> <p>・ 10枚の束をもとにすると、150枚は15束、50枚は5束で、分けられる人数は、$15 \div 5$の式で求めることができる。</p> <p>・ 15と50、それぞれを10でわると $15 \div 5$ になり、商は $150 \div 50$ の商と等しい。</p> <p>・ 15と5、それぞれに10をかけると $150 \div 50$ になり、商は $15 \div 5$ の商と等しい。</p>	<p>関 既習の何十でわる除法の計算をもとにして、$150 \div 50$ の計算のしかたを考えようとしている。（観察・ノート）</p> <p>★商が求められていない時は、わられる数とわる数を10でわるよう助言する。</p> <p>※具体的な数値、場面を通して理解できるように支援する。</p> <p>★10枚の束をもとにして考えていることを確認する。</p> <p>★隣の児童と、説明のしかたを確認し合うことによって、自分の考えを確認し、自信が持てるようにする。</p>	10																									

<p>②5枚の束をもとにするかどうか、考える。</p>	<p>○5枚の束をもとにして考える。</p> <p>・ $150 \div 50 = 3$ $\downarrow \div 5 \downarrow \div 5$ $30 \div 10 = 3$ } 等しい $\uparrow \times 5$ } 等しい</p> <p>・5枚の束をもとにすると、150枚は30束、50枚は10束で、分けられる人数は、$30 \div 10$の式で求めることができる。</p> <p>・150と50、それぞれを5でわると $30 \div 10$になり、商は $150 \div 50$の商と等しい。</p> <p>・30と10、それぞれに5をかけると $150 \div 50$になり、商は $30 \div 10$の商と等しい。</p>	<p>考 具体的な場面から、被除数、除数と商の関係を考えている。(観察・発表)</p> <p>★5枚の束をもとにして、5でわって考えていることを確認する。</p>	<p>3</p>
<p>4 わり算のきまりをまとめる。</p> <p>①発表し、確認する。</p> <p>②ノートにまとめる。</p>	<p>○計算のしかたからわり算のきまりを見つけ、発表する。</p> <p>・$150 \div 50$の150と50を10でわった時も、5でわった時も、商は同じ。</p> <p>・$15 \div 5$の15と5に10をかけた時、$30 \div 10$の30と10に5をかけた時も商は同じ。</p> <p>○教科書の「まとめ」を読んで確認し、ノートに書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>わり算では、わられる数とわる数に同じ数をかけても、また、わられる数とわる数を同じ数でわっても、商は変わりません。</p> </div>	<p>知 除法の性質を理解している。(発表)</p> <p>※発表し、確認してからノートにまとめるようにする。</p> <p>★教科書のまとめを書き写しているか、確認する。</p> <p>★きちんと書けているか、隣同士で確認するように指示する。</p>	<p>10</p>
<p>5 適用問題に取り組む。</p>	<p>○P.15の②の適用問題を解決する。</p>	<p>表 除法の性質を用いることができる。 (ノート)</p> <p>※問題にとりかかれないうる児童には、わられる数とわる数を10や5でわるなどの助言をする。</p> <p>★学習したことを生かして計算しているか確認し、とまどっている時には、わられる数を10でわったり5でわったりして計算することを助言する。</p>	<p>10</p>

支援籍学習「音楽」 学習の流れ・知的障害のある児童（例）

学習活動	学習内容	留意点及び支援
あいさつ 自己紹介	手拍子まわしで自己紹介 ※ 全員で円形になり、4拍子のリズムに合わせて自分の名前を順番に回していく。→好きな果物でも同様に行う。	みんなの前で紹介する。
合 唱	「うみ」を歌う 8～10名のグループになって輪を作り、合唱しながら音楽に合わせて小さなボールを回していく。	支援籍児童Aさんにグループに参加するように促す。
リコーダー演奏	「とんび」をリコーダーで二重奏する。 ※ ピアノ伴奏は支援籍児童Aさん。	Aさんのテンポで演奏する。
合 奏1	「ラバースコンチェルト」をリコーダー、小太鼓、大太鼓、タンバリンを使ってアンサンブルする。 ※ Aさんはタンバリンでアンサンブルに加わる。	できる限り回りの児童との関わりの中で、Aさんが活動できるようにする。
合 奏2	<p>「ロンドン橋が落ちる」</p> <p>① ハンドベルとリコーダーで演奏 ※ 1～8班まで順番にハンドベルを演奏し、他の児童はリコーダーで演奏する。 Aさんにはハンドベル「ド」の音を担当させる。</p> <p>② 実際に「ロンドン橋」のゲームをする。 ※ 音楽に合わせて橋を作る児童以外で、反時計回りに回る。橋のところをつかまった児童が橋を担当していた児童と交換し、次のゲームをはじめる。</p> <div style="text-align: center;"> <p style="text-align: center;">2人1組で 橋を作る</p> </div>	<p>特別支援学校の引率の担任は、全体の活動を通し、STとして、Aさんに声かけをしたり、活動を促したり、小学校の児童に関わり方を教えたりしながら支援する。</p>
合 唱 あいさつ	「セピア色になっても」	

第5章 通常の学級における支援籍学習を実施して

通常の学級における支援籍学習、実施後の効果

特別支援学校の児童生徒にとって

- 地域の子どもたちと知り合いになれました。
- 新しいことへのチャレンジができました。
- 子どもたちと集団行動がとれました。
- 新しい場面でも行動ができました。
- 苦手なことが克服できました。
- 得意なことや、頑張っていることを知ってもらえました。

特別支援学校の児童生徒にとって、小中学校での集団生活を体験する中で、障害のない児童生徒との関係が深まり、成長するためのより良い刺激を受けています。また、地域の児童生徒と知り合い、一緒に交流することができ、交流への不安がなくなり、地域の中の一員であることが実感できます。

【そうじの時間】

そうじも一緒。
きれいになりました。



小中学校の児童生徒にとって

- 障害による差別や障害を特別視をしなくなりました。
- 自ら進んで手をつないで誘導したり、励ましたりと、構えず自然に関わりあえるようになりました。
- 友だちの頑張っている姿を認める機会が持てました。
- 回を重ねるごとに自然に声をかけたり、遊んだりできるようになりました。
- 地域で姿を見かけると声をかけることができるようになり、障害のある子どもとの関わりに慣れてきました。

小中学校の児童生徒にとって、障害のある人への具体的な対応が分かり、自然に接することができ、障害についての理解を深めるとともに、地域の仲間としての意識が自然と芽生え始めています。また、児童生徒がお互いを認め合い、学校全体が優しくなってきたという効果もでています。

【給食の時間】

給食の準備も自分でできます。とてもおいしいです！



保護者にとって

- 地域の子どもたちに、子どもの存在を知ってもらう機会ができてうれしかったです。
- 好意的に受け入れてもらえてよかったです。
- 同年齢の子どもたちと触れ合うことができてよかったです。
- 本人にとって新しいことに挑戦できてよかったです。
- 街で出会うと声をかけてくれ、地域で生活している実感が得られました。
- 支援籍学習の経験をして、本人に少し自信がついたように感じました。

支援籍学習・お母さんの感想(支援部だよりより)

朝、小で一緒だったクラスの子どもたちが清掃活動をしていて、私たちを見つめるや「Fくんだよ」「Fちゃん」と声をかけてくれました。また、知り合いのお母さんも「Fくん、うちの学校にきたんだねー」と声をかけてくれたり、同じマンションで同じ年の子を持つ方からも話しかけられました。養護学校のお母さん方も前回の通信を通して「見たよー」と言ってくださり、この交流がいろんな方に関心を持たれているのだなということを実感しました。

～ 中略 ～

今後も多くの子が地域のお子さんたちとふれあいの時間をもてたらいいなあと思いました。